

# 視覚

視覚というものは、面白いもので、昔、瀬戸内芸術祭典に行ったとき、暗闇の部屋に入って、しばらくして、目が慣れて来ると、前方に薄いカーテンの光が見えてきました。ガイドさんの話によると、最初から天井の隙間から光が射しており、目の瞳孔が開いたために見えるのだそうです。また、昼間の明るいとき、交通信号は周りに光を放っているのに、光の輪が見えない。夜になると、光の輪が見える。特に雨降りの時はその輪がよくみえる。おそらく、周りの雨の粒子に光が反射して、見えるのだと思います。また、リンゴをガラステーブルの上に置くと、リンゴが映ります。ということは、りんごのまわりに、赤い色をはなっているのです。しかし、我々の視覚では見えません。ひよっとしたら、視覚に鋭敏な人は、見えるかもしれません。絵の具は混色すると黒く濁ってきます。光は混色すると白色になります。よく水墨家が墨は全ての色を含み、全ての色の表現ができる。といった話を聞いたことがある。

うなずけます。そこで、感ずいたのですが、絵の具を混色せずに点描にすれば、全て色が光としてとらえ、目のなかで混色し、白色に見えるのではないのでしょうか。　　これしかり！